

# 定期作況報告

平成 12年 9月  
( 9月 20日現在 )

北海道立北見農業試験場

# 1. 気象経過

8月下旬：最高気温は平年に比べやや高く、最低気温、平均気温は高かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比51％）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比82％）。

9月上旬：最高気温は平年に比べやや低く、最低気温、平均気温は平年並であった。降水量は平年より極めて多かった（平年比289％）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比68％）。

9月中旬：最高気温は平年に比べやや高く、最低気温は極めて高く、平均気温は高かった。降水量は平年並であった（平年比68％）。日照時間は平年並であった（平年比84％）。

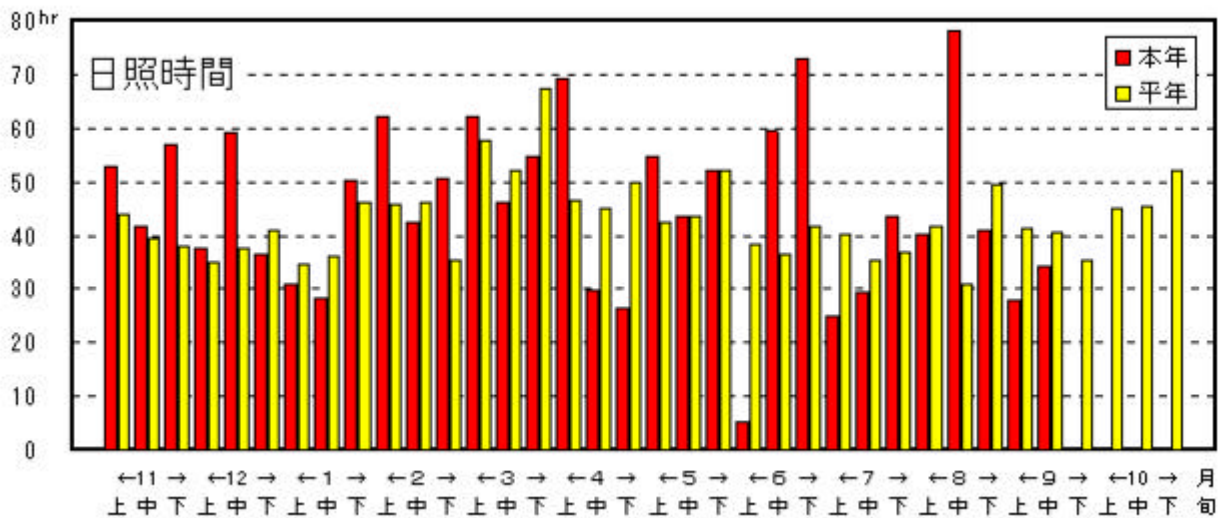
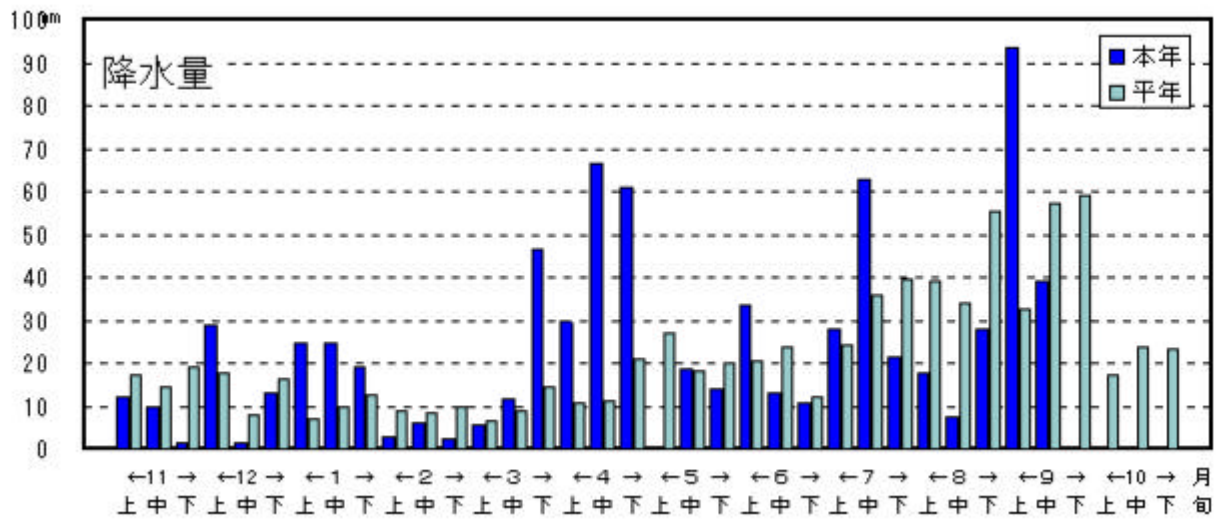
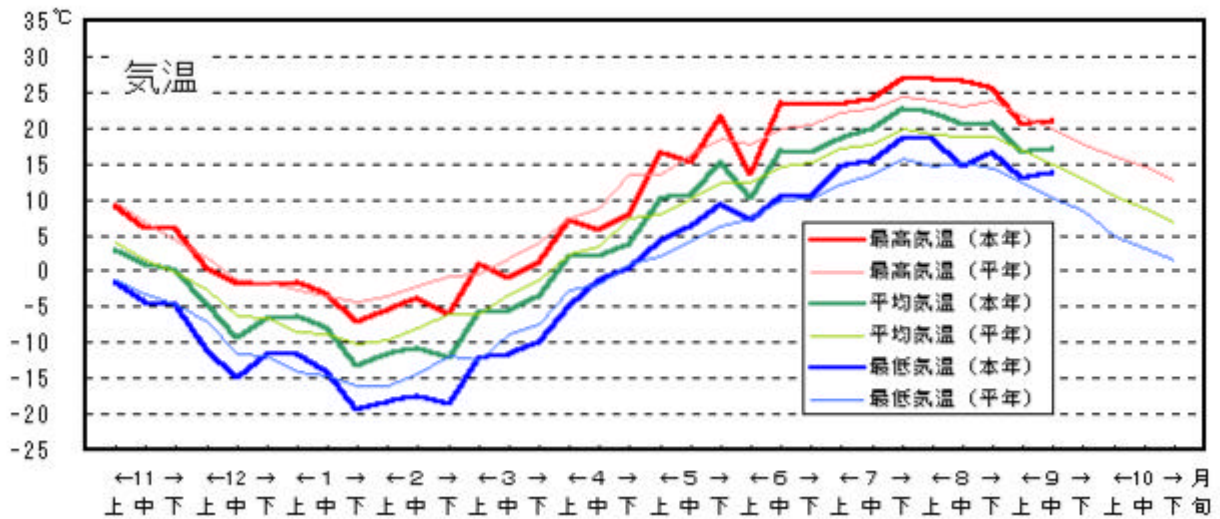
以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は、やや高温で、降水量は平年並で、日照時間がやや少なく経過した。

気象表

項目 月旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	20.7	18.9	1.8	25.4	23.9	1.5	16.5	14.4	2.1
9月上旬	16.6	16.9	0.3	20.5	21.7	1.2	12.9	12.5	0.4
9月中旬	17.2	14.8	2.4	21.0	19.8	1.2	13.8	10.1	3.7
平均	18.2	16.9	1.3	22.3	21.8	0.5	14.4	12.3	2.1

項目 月旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	28.0	55.3	27.3	40.8	49.6	8.8
9月上旬	93.5	32.4	61.1	27.9	41.3	13.4
9月中旬	39.0	57.0	18.0	34.2	40.6	6.4
合計	160.5	144.7	15.8	102.9	131.5	28.6

注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。  
2) 平年値は、平成元～10年の10か年間の平均である。



## 2. 当場の作況

### 1) 春播小麦 作況：不良

事由：融雪後の低温と4月下旬の降雪により圃場の乾燥が遅れ、播種は平年より9日遅れた。出芽や初期生育は順調であったが平年に比較すると生育は劣っていた。6月中旬以降の高温により生育は進み、出穂期は平年より1日早く、成熟期も4日早く、登熟期間が平年より短くなった。また、成熟期の稈長、穂長、穂数は平年を下回り、全体の生育量は平年より劣っていた。千粒重はほぼ平年並であったが子実重は平年比88%であった。

以上のことから目下の作況は不良である。

品種名	成熟期(月・日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/㎡)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ハルユタカ	8.9	8.13	4	80	89	9	7.8	8.2	0.4	485	508	23

品種名	子実重(kg/10a)				千粒重(g)		
	本年	平年	比較	平年比(%)	本年	平年	比較
ハルユタカ	339	387	48	88	36.7	37.2	0.5

注) 平年値は前7か年中、平成5年、9年を除く5か年の平均。

### 2) とうもろこし 作況：やや良

事由：8月下旬以降も気温が比較的高く推移し、登熟が平年より進んだため、収穫期は平年より13日早い9月14日であった。稈長は両品種とも平年並であった。

以上より目下の作況はやや良である。

品 種 名	収 穫 期 (月・日)			稈 長 (cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ワセホマレ	9.14	9.27	13	201	202	1
ダイハイゲン	9.14	9.27	13	209	209	0

注) 平年値は前7か年中、平成5年と平成9年を除く5か年の平均。

## 3) 大豆

作況：良

事由：9月上旬は多雨であったが、平均気温は期間を通じて平年並～高く経過したため、莢の伸長・肥大は順調に進んだ。主茎長は平年をやや下回っているが、着莢数は平年より多い。  
以上のことから目下の作況は良である。

## 4) 小豆

作況：試験の中止

事由：微量要素欠乏により生育の著しい停滞がみられたため、8月以降試験を中止した。

## 5) 菜豆

作況：平年並

事由：9月上旬は多雨であったが、平均気温は期間を通じて平年並～高く経過したため、登熟は順調に進み、成熟期は平年と比較して「大正金時」で5日、手亡類で8日それぞれ早かった。生育は平年並～やや上回る傾向がみられ、着莢数は平年並～やや多いが、登熟期間の短縮により子実の小粒化が予想される。

以上のことから目下の作況は平年並である。

種類	品種名	成熟期(月・日)			主茎長・草丈(cm)			主茎節数		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	キタムスメ	-	10.13	-	71.7	77.8	6.1	13.3	13.3	0
	トヨコマチ	-	10.5	-	55.3	58.3	3.0	11.0	10.8	0.2
小豆	エリモショウズ	-	9.23	-	-	47.0	-	-	12.8	-
	サホロショウズ	-	9.16	-	-	37.1	-	-	10.5	-
菜豆	大正金時	8.31	9.5	5	40.6	38.6	2.0	5.0	5.2	0.2
	姫手亡	9.14	9.22	8	57.9	47.1	10.8	9.6	9.1	0.5
	雪手亡	9.14	9.22	8	58.3	50.2	8.1	9.6	9.3	0.3

種類	品種名	分枝数(本/株)			着莢数(個/株)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	キタムスメ	5.9	5.4	0.5	77.1	65.7	11.4
	トヨコマチ	5.5	4.7	0.8	67.9	52.7	15.2
小豆	エリモショウズ	-	2.9	-	-	44.4	-
	サホロショウズ	-	3.1	-	-	44.4	-
菜豆	大正金時	2.8	3.4	0.6	17.4	17.2	0.2
	姫手亡	7.1	6.4	0.7	34.3	30.9	3.4
	雪手亡	6.9	6.6	0.3	32.8	31.5	1.3

注) 平年値は前7か年中、大豆は平成5年と11年、小豆は平成5年と9年を除く5か年の平均。  
菜豆は前8か年中、平成6年と8年および再播した10年を除く5か年の平均。

## 6) ばれいしょ

作況：平年並

事由：「男爵薯」の枯凋期は平年並であった。9月に入って気温が低下し、降水量も十分あったため、上いも重は両品種ともほぼ平年並に回復した。でん粉価は両品種とも平年より高く、でん粉重は平年値をやや上回っている。両品種とも二次生長はほとんどみられないが、「紅丸」には大～中いもの約3割にごく軽微な褐色心腐が認められ、「男爵薯」には大～中いもの約1割に中心空洞が認められた。

以上のことから目下の作況は平年並である。

品種名	枯凋期(月・日)			上いも重(kg/10a)			でん粉価(%)			でん粉重(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵薯	9.10	9.10	0	4,540	4,589	49	16.3	14.5	1.8	692	617	75
紅丸	未	10.4	-	5,355	5,488	133	17.1	16.0	1.1	859	821	38

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」「紅丸」とも平成6年、9年を除く5か年の平均。

## 7) てんさい

作況：平年並

事由：前節に引き続き、移植栽培における根部の肥大は順調である。また、直播栽培における地下部の生育も、降雨が多かったため平年をやや上回った。しかし、9月上旬の多雨や8月下旬・9月中旬の高温(特に高夜温)の影響で、根中糖分の上昇は平年に比べて鈍い。

以上のことから目下の作況は平年並である。

栽培法	品種名	草丈(cm)			葉数(枚)			根周(cm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ	63.0	59.0	4.0	31.3	31.2	0.1	34.8	31.2	3.6
	ストーク	59.5	56.9	2.6	33.0	30.9	2.1	38.6	33.7	4.9
直播	モノホマレ	64.3	63.3	1.0	29.8	29.3	0.5	29.7	28.8	0.9

注) 平年値は前7か年中、移植栽培は平成7、10年を除く5か年の平均、直播栽培は平成5、10年を除く5か年の平均。

## 8) 牧 草

作況：不良

事由：オーチャードグラス混播草地の3番草は平年に比べ、イネ科草丈が低く、マメ科率がやや低く、乾物収量の平年比が88%であった。また同単播草地の3番草は平年に比べ、草丈がやや高く、乾物率が高く、乾物収量の平年比が92%であった。同草地の1～3番草を合計した乾物収量の平年比は、混播が94%、単播が83%であった。また今月までのオーチャードグラス混播・単播両草地及びチモシー混播・単播両草地の1番草からの乾物収量の合計の平年比は92%であった。

以上のことから目下の作況は不良である。

## オーチャードグラス混播・単播草地3番草調査結果(8月23日刈取り)

草地	草種	草丈(cm)			マメ科率(%)			乾物率(%)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
混播	オーチャードグラス	72	81	9	16.1	17.9	1.8	19.8	19.3	0.5
	シロクローバ	43	43	0						
単播	オーチャードグラス	67	61	6	-	-	-	23.4	21.0	2.4

## 同草地1～3番草収量調査結果

(1番草：6月5日 2番草：7月18日 3番草：8月23日刈取り)

草地	番草	生草収量(kg/10a)				乾物収量(kg/10a)			
		本年	平年	比較	対平年比(%)	本年	平年	比較	対平年比(%)
混播	1番草	2284	2043	241	112	313	290	23	108
	2番草	1674	1758	84	95	231	272	41	85
	3番草	999	1155	156	86	197	224	27	88
	合計	4957	4956	1	100	741	786	45	94
単播	1番草	861	1120	259	77	159	193	34	82
	2番草	731	817	86	89	141	183	42	77
	3番草	568	678	110	84	132	144	12	92
	合計	2160	2615	455	83	432	520	88	83

## 今月20日までの各草地の乾物収量調査結果(単位：kg/10a)

草種	草地	本年	平年	比較	対平年比(%)
オーチャードグラス	混播	741	786	45	94
	単播	432	520	88	83
チモシー	混播	899	948	49	95
	単播	493	544	51	91
合計		2565	2798	233	92

- 注) 1. 各草種の品種はオーチャードグラスが「キタミドリ」、シロクローバが「カリフォルニアラジノ」である。
2. 混播草地の乾物率は、イネ科・マメ科を併せた全体についてのものである。
3. 平年値は平成5年から平成11年までの前7か年のうち、混播草地が平成9年と平成10年を、単播3草地は平成7年と平成11年を除く5年間の平均である。

9) たまねぎ

作況：不良

事由：8月を通じての高温干ばつやそれに伴うネギアザミウマの多発により、倒伏後根切りを待たずに枯葉が進み、収穫期は2週間以上早まった。8月20日以前に根切りを行っていた早生品種の「改良オホーツク1号」は、それ以降の球肥大はみられなかった。中生品種の「北もみじ」、晩生品種の「スーパー北もみじ」では、平年、8月20日時点の葉身の水分含量が高く、その後も球肥大するが、本年は枯葉の進展が著しく、球肥大はほとんどみられなかった。その結果、規格内収量は各品種とも平年の7～8割程度にとどまった。また、「改良オホーツク1号」では、根切り時期の高温により、約1%の日焼け球の発生がみられた。

以上のことから目下の作況は不良である。

品種名	葉身乾物率(%)			収穫期(月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	14.6	9.0	5.6	9.7	9.25	18
北もみじ	15.4	8.8	6.6	9.7	9.23	16
改良オホーツク1号	-	8.3	-	9.7	9.26	19

品種名	平均一球重(g)			規格内収量(kg/a)			総収量(kg/a)		
	本年	平年	対比	本年	平年	対比	本年	平年	対比
スーパー北もみじ	136	199	68%	328	508	65%	405	538	75%
北もみじ	135	175	77%	358	477	75%	412	515	80%
改良オホーツク1号	151	199	76%	366	454	81%	461	547	84%

注) 平年値は、「スーパー北もみじ」が平成7～11年、「北もみじ」が平成6、8～11年、「改良オホーツク1号」が平成4、7～9、11年のそれぞれ5か年の平均。葉身乾物率は、8月20日現在の数値であるが、「改良オホーツク1号」については、すでに根切り後であったため計測していない。平均一球重、規格内収量、総収量は9月18日の収量調査の数値。